

(様式第4号)

上田市市民協働指針検討委員会 会議概要

| | |
|-------------|---|
| 1 審議会名 | 第9回上田市市民協働指針検討委員会(最終回) |
| 2 日時 | 平成27年4月27日(月)午後1時30分から午後3時20分まで |
| 3 会場 | 市役所本庁舎 6階 大会議室 |
| 4 出席者 | 佐藤和雄会長、宮尾秀子副会長、北澤良子委員、竹内充委員、田畑裕康委員、中澤信敏委員、丸山かず子委員、山浦健太郎委員(欠)河野良治委員、竹田裕美委員 |
| 5 市側出席者 | 鎌原市民参加・協働推進課長、中村市民参加・協働推進担当係長、 内藤市民参加・協働推進担当主査 |
| 6 公開・非公開 | 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 |
| 7 傍聴者 | 0人 |
| 8 会議概要作成年月日 | 平成27年5月18日 |

協 議 事 項 等

1 開 会

2 会長あいさつ

・3月12日の提言で一応の役割を終え、本日は最終回の予定として、市から策定の報告が主である。今後の協働推進に向け、思いやアドバイスなどお願いしたい。

3 会議事項(会長進行)

(1) 「上田市協働のまちづくり指針」の策定について

事務局から「策定までの経過」「策定内容」「当面の市民、庁内への周知」等について説明。

・3/12市長への提言後、部長会議で協議し策定した。

・指針冊子1,000部作成し、市議会議員と各課所へ1冊ずつ配布した。今後は、出前講座や地域内分権などで協働に関する説明時に使用する予定。

・以降、質疑、意見

(委 員)職員にどう浸透させていくのか。

(事務局)課長会議では、指針の策定と周知、各課所に協働推進委員を配置していくことを説明した。

まずは協働推進委員を対象とした研修を予定する。

(委 員)職員研修を受けた職員は課内へ周知してもらいたい。

(委 員)アンケートをとった市民活動団体、地域協議会にも配布したらどうか。

(委 員)冊子を有効に使用してもらいたい。

(2) 「協働推進のための環境づくり」の取組等について

事務局から、資料に基づき、当面の取り組みについて説明。

・以降、主な質疑、意見

(事務局)環境づくりについて今年度予算は、職員研修用講師謝金の予算、人材育成講座を充実するなどの予算である。

(委 員)長野市のようなサポートセンターがあると相談しやすい。市民活動を支援する機関が大事で、市職員でなく、民間活用(専門のNPOに委託)をした方がいい。市職員は異動してしまう。長野市の市民協働サポートセンター(門前プラザ内)は、市の予算で、NPOに委託している。

(委 員)来年度予算で、海野町商店街の空き店舗などを利用し、NPOに委託し市民活動サポートセンターを設置してほしい。

(委員) わがまち魅力アップ応援事業で市民活動サポートセンターを作り、実績を積み、市も予算確保に動くのではないかな。

(委員) 庁内検討委員と議論できればよかったと思う。今後、協働推進委員と年1回くらい話し合いができればいい。それが環境づくりの取組になると思う。

(委員) 市民団体などから相談があったら、その課の協働推進委員が窓口となり、課長などとの繋ぎ役になるといい。また、その部や課だけで処理するだけでなく、協働推進委員が必ず市民参加協働部にも話を繋げる役目を果たしてもらいたい。

(委員) 協働推進委員の制度を地域協議会、自治会、自治会連合会にもやってもらったらどうか。

(委員) 市民サイドでは、もっと議員を利用すればよい。議員には元々、市と市民を繋ぐ役割がある。

(委員) わがまち魅力アップ応援事業はまだ続くのか。

(事務局) 地域内分権で整理することは考えられるが、すぐに終わるわけではない。

(委員) 市民が「わがまち魅力アップ応援事業」を活用し、例えば「上田の未来を考える会」など開催してはどうか。

(委員) 事業に専属の職員を付けないと形になっていかない。絵に描いた餅になってしまう。市民を巻き込んで、話し合いをしていかないと具体的なものにならない。取組みについて、ここにいる委員など市民に相談してもいい。行政が具体的な計画を組み立てていくうえで、市民と一緒にやっていくというのが前提である。

(事務局) その他意見があれば、後日でも良いのでいただきたい。

(会長) 委員会終了のあいさつ